

月刊ウィーン

現地オリジナル取材と編集で
ウィーンを伝える月刊情報紙
創刊平成元年 創刊26年目
創刊1989年 Nr.305

GEKKAN-WIEN 2014年11月号





杉本純の原子力の話 II ウィーンと京都 38



九月十一日〜十二日にかけて、ストックホルム大学、カロリンスカ医科大学、王立工科大学、ウプサラ大学及び京都大学の共催により、スウェーデン・京都シンポジウムがストックホルムで開催された。京都大学の国際連携を強化することにより、世界的な知見を創出する研究機関を目指すことが目的である。スウェーデンからは文理両分野から教師を中心に学生を除いて約百名の参加があった。京都大学からは、三嶋副学長及び森副学長を始め、教師、研究員を中心に六二名が参加した。一日目は、各大学の紹介や京大の北川進教授を含む三件の基調講演があり、二日目は四大学に分かれて、十セッションで計一〇一件の報告と討論を行った。

王立工科大学で開催された原子力セッションでは、セガール先生と筆者がコーディネーターとしてシビアアクシデント研究の現状について報告した。その後報告では、京大からは、放射性廃棄物について佐々木先生、新原力システムについて斎藤先生とト(ジョン)先生、核融合について村上先生から報告があり、学生も参加して活発な討論を行った。シビアアクシデントや熱流動関係の実験装置

を見学することもできた。最後の取りまとめでは、共同研究や学生の相互派遣など、今後も協力を進めることで合意した。一日目の夕方、ノーベル賞晩餐会が行われる市庁舎視察後の日本大使館主催のレセプションでは、元ウィーン国際機関代表部大使の森元スウェーデン大使と再会できたのが嬉しかった。



原子力セッション参加者

さて、今月のウィーンと京都の対比では、両市の貸し自転車について述べたい。ウィーンでは、自転車は環境に優しく、駐車場を探す心配もないため、市内観光サイクリングを楽しむ人が増えている。プラターとドナウ河岸の随所にレンタサイクルの店が営業している。さらに旧市街を中心にレンタサイクル・システムが定着している。市内約百カ所のステーションに貸し自転車常備され、これらのステーションに返却できる。料金は1時間目以上は一時間につき四ユーロである。ブルク劇場、市庁舎国会議事堂、王宮、美術史博物館、オペラ座、市立公園など名所を巡るサイクリングコースの大半は、リング通りの並木の下を通っている。

業しており、多種多様な自転車揃っている。祇園の街並みや仏具店などがある路地裏を通った時に感じるお香の匂いや鴨川沿いを走った時に聞こえる川のせせらぎ、京都の生活感や空気など、電車や車では堪能できない楽しみが自転車にはある。両市は、主な観光スポットが比較的狭い地域に収まっていること、市内がほぼ平坦であることなどが、自転車がびつたりの国際観光都市であることが共通している。余談であるが、筆者はウィーン赴任中、地下鉄、トラム、車ばかりで自転車は利用していなかったのがやや悔やまれる。京都では吉田キャンパスへは自転車約十分なので、夕食を家で摂り、再び大学に戻って仕事をしていた。現在は桂キャンパスなので通勤は電車とバスであるが、土日は良く自転車を利用している。家内もどこへ行くのも自転車である。両市の貸し自転車を紹介することができたことに感謝しつつ、リング通りに面するブルク劇場を描いたスケッチを掲載させていただく。



■ 杉本純 京都大学教授
元原子力機構ウィーン事務所長 ■